

## 巻頭言 「将来より賜る」

宇野 元

ギレアド・シリーズ第三作『Lila』（2014年）は、第一作が書簡体による作品であったのにたいして、三人称による小説らしい小説の形をとりながら、主人公に寄り添う語りによって、ライラという女性を内側から描いています。

他方、『ギレアド』では語り手だったジョン・エイムズは、外側から光を当てられ、より客観的な姿が示されています。

神学的な牧師。妻ライラに翌週の説教の原稿を読んできかせるくだりにおいて、エイムズがこのような言葉を語ります。私たちの将来は、私たちの過去によらない。神の無償の愛より与えられる。

ですから、人生の大部分のことは、私たちの理解を超えている、なぜなら、私たちの人生は、私たちの理解を超える神にかかっているからである、そう私が言いますのは、神の恵みを認めるからです。……ジグソーパズルのピースを繋ぐことは、私たちにはできません。どんな必然性も与えられていないのですから。神の恵みのほかには。

自分が記した原稿について、エイムズは注釈を加えます。「まだ粗いな、まだ十分言葉にできていないが、少なくとも要点はずれていないだろう。」いや、聖書の観点を的確に言い表している。そう膝を打つ思いがします。そして、エイムズにこのように語らせる作者の神学的思惟の深さに驚かずにおれません。

と同時に、強く思います。このような人生観は一般的なものと同じではない。私たち自身に染み込んだ考え方とちがう。将来は、過去からと私たちは考える。

エイムズ自身、現在のジャックを見るのに、過去のジャックの歩みから判断し、信用できないと考えてしまうのを簡単に変えることができず、葛藤をおぼえます。エイムズ牧師の矛盾は、聖書的に考えることが、私たち自身の思考の仕方を越えることを示しています。このことはなんと驚くべきことでしょう！ 聖書が私たちに知らせてくれることは、私たちに染み込んだ考え方と同じではありません。しかし、これを心に受け取るとき、みずからの限界を超える支えを与えられます。